

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

わかる授業で自信を持ち一人ひとりの個性を大切に、生徒が本来持っている可能性を引き出すことで夢を実現する学校づくりをめざす。

- 1 生徒のやる気に応え、夢を実現するために基礎学力の定着と社会の基本的なルールやマナーを身につける。
- 2 様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、すべての生徒にとって学校が安全で安心な居場所となることをめざす。
- 3 様々な人との出会いを通じてコミュニケーション力を高め、「地域を支える人材」として人々のために進んで社会貢献できる生徒を育成する。

2 中期的目標

1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり

(1) 「わかる授業」「生徒が受けたいと思う授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ア 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の向上を図る。
- イ ICT機器を活用し、授業のユニバーサルデザイン化(視覚化・構造化・協働化)を進めるとともに、教員の「授業力」の向上を図る。
生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を毎年2%上げ、2021年度には70%にする(平成29年度:61% 30年度:66%)

2 安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信

(1) 生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。

- ア 様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、「面倒見の良い学校」づくりをめざす。SC、SSWと連携し生徒情報共有会議を密接に行う。
- イ 保健室、カウンセリングルーム、図書室、関係機関との連携を利用することで、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。
- ウ 生徒会活動を活発にし、魅力ある学校行事への改善を進めるとともに、部活動の活性化を図る。
生徒向け学校教育自己診断における「先生は悩みや相談を聞いてくれる」を毎年2%上げ、2021年度には65%にする(平成30年度:60%)

(2) 進路を保障する学校づくりを推進するためのキャリア教育の確立を図る。

- ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。
- イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。
- ウ 問題行動の未然防止に取り組むとともに、社会人としての態度・マナーを育成する。
就職内定率の向上をめざし、毎年度95%以上を維持する。(平成30年度の就職内定率:100%)

(3) 人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。

- ア 教員のアンテナを常に高くし、人権感覚を研ぎ澄ますことでいじめや差別の未然防止に努める。
- イ 多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語教育を推進し、大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。
生徒向け学校教育自己診断における「多文化共生は進んでいる」を毎年2%上げ、2021年度には80%にする(平成30年度:73%)

(4) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。

- ア 授業を積極的に公開するとともに授業や行事等、高校生活の様子を学校説明会やホームページを通じて広報活動を行う。

3 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上

- (1) 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、事務作業時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
- (2) ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・回答数 生徒:553名中524名(94.8%昨年86.0%) 保護者:295名(53.3%昨年31.3%-昨年19%) 教員:61名(100%) 担任を中心に工夫した取組みの結果、課題であった保護者の回答数を大幅に増加することができた。 ・重点的に取り組んでいる「長吉高校の授業はわかりやすい」については、肯定的回答が61%で全体としては目標に達しなかったが、例年低かった2年次では7%上昇し目標を達成した。2年次からモジュールがなくなり授業内容が高度になる。対策として選択科目の本人希望を優先させるなどの工夫が効果をあげたと思われる。今後は早い時期から進路を意識することで学習の必要性を実感させるなど、学習意欲を高める工夫が必要である。進路実現に向けてカリキュラム等も含め、学校全体で取り組むことが喫緊の課題である。また、多忙で他の教員の授業見学を行うことができない。業務の削減を積極的に行う必要がある。 ・「授業のわかりやすさ」「自分の考えや意見を伝える力の向上」「先生の指導の納得感」「学校行事の満足度」等の項目と「学校満足度」を示す項目は相関関係があると教育庁により分析されているので、これらの項目を工夫することにより学校満足度は改善される見込みがある。エンパワメントスクールの達成目標である「エンパワメントスクールに来てよかった」(今年度64%)の肯定的回答80%以上を達成するには今年度の結果を真摯に受け止め、今後もこれらの項目について、生徒・保護者の意見を聞きながら工夫した取組みを行う必要がある。 	<p>第1回 令和元年6月22日(土)10:00~12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時のアンケートは肯定的意見が目立つが、進路保障が気になる。卒業がゴールでなく、長期的な視点を持てるように、キャリア教育を充実させ、進路実現させてほしい。 ・長吉高校の良い所は、居場所や達成感、勉強や生活習慣などの自信を持って卒業できること。学校に来てよかったと、生徒も保護者も思えるような学校にしてほしい。 ・インターシップに多くの生徒が参加できるように在り方を模索してほしい。 ・コミュニケーション力、社会で通用する学力、生きる力を身に付けさせてほしい。 ・教員の負担が大きい。教員加配、地域人材、外部人材の確保を検討してほしい。 <p>第2回 令和元年11月20日(水)14:30~16:30 事前に授業見学実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を受ける姿勢がよく、「生徒が参加している」と感じた。 ・良い所を伸ばしているが、苦手教科の克服が課題。学習に興味を持てる工夫が必要。 ・「何を大事にしないといけないのか」という議論を深める必要がある ・企業側が高校生に期待するのは、基本的なことがきちんとできていること。 ・保護者も含め地域社会や中学校といかに連携するか、連携から次への発想、様々な展開がひろがっていく。 <p>第3回 令和2年2月8日(土)10:00~12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年によるアンケート結果の違いを分析し、学校全体で共有する必要がある。 ・入学してくる生徒層の傾向が中学校の見方であり、5年間のエンパワの取組みを見直す時期である。ネクスト長吉が何を大切にするかを打ち出すことが重要である。 ・部活動が盛んでないために長吉高校を敬遠する中学生がいる。部活動の活性化が必要。 ・「学びなおし」でどんな力が身につくのか、が保護者や中学生にきちんと伝わっていない。長吉高校がめざす像、教育観を明確にしてもっと発信する必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり	(1)「わかる授業」 「生徒が受けたいと思う授業」をめざした授業改善 ア 「わかる授業」づくりのための授業改善 イ ICT 機器を活用した授業のユニバーサルデザイン化	(1) ア 生徒の学習状況(実態)に基づいて授業の見直しを行う。その際、取組の工夫を各教科で提案し教員全体で共有する。 ・2年次に学力低下させない工夫を考え具体化する。 イ 研修等で電子黒板を活用できる教員のすそ野を広げる。授業におけるナチュラルサポートを実践する。(生徒の努力や取り組みをほめる機会を多くつくる。等)	(1) 考査期間を活用し年3回以上の教員研修を実施。 ア・他のエンパワメントスクールを訪問し、授業見学とともに各校の取組みを聞き取り、報告会をもつ。 ・公開授業週間を年間2回以上実施する。 ・学校教育自己診断結果における「授業のわかりやすさ」での肯定的回答68%以上をめざす。(H30:66%)(2年次の肯定回答60%以上(H30:55%)) イ・教員対象・学校教育自己診断の「ICT機器の活用」項目について肯定的回答68%をめざす。(H30:66%)	・年間4回実施(4月、5月、12月、2月)() ア・各教科担当者が他のエンパワメントスクールを訪問し、各校の取組みの情報を収集し、教科会議で共有。() ・6月、11月、1月公開授業週間を設定() ・学校全体では61%()2年生は62%()2年次の選択科目を生徒の希望を優先させる等工夫したことが効果をあげたと思われる。学校全体で更なる授業改善が必要。 イ・ICT機器を活用した教員は69%() ICT環境を整えるとともに、研修等も実施し、授業のユニバーサルデザイン化を更に進める。
2 安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信	(1)セーフティネットの拡充 ア 「面倒見の良い学校」づくり ウ 学校行事の改善 部活動の活性化 (2)キャリア教育の確立 ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進 イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上 ウ 社会人としての態度・マナーの育成 (3)人権教育の推進 イ 多文化共生の学校 (4)中学校等への広報強化 ア 授業公開	(1) ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導 ・1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。 ウ 生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。新入生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教職員で取り組む。 (2) ア・3年間を見通したキャリア支援計画を検討し具体化する。 ・本校に配置される外部人材(CC、SSW、SC)の活用と必要に応じて三者間の連携を図る。 イ・教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。 ウ・社会人として必要なマナーとして、遅刻や服装・頭髪等について指導する。 ・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。 (3) イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒との校内での交流を促進する。 (1)(2)(3)を通じて生徒の学校満足度を高める (4) ア・公開授業週間に授業を公開し、保護者及び中学校の先生方に見学してもらう。 ・HPを通じて生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。	(1) ア・「先生は悩みや相談にいていねいにしてくれる」(生徒用)項目について、肯定的回答62%以上をめざす。(H30:60%) ・「担任等に相談しやすい」(保護者用)の項目について肯定的回答61%以上をめざす。(H30:59%) ウ・生徒対象・学校教育自己診断の「学校行事に満足している」項目について肯定的回答63%以上をめざす。(H30:60%) ・年度末における1年生の部活動加入率50%をめざす。(H30:47%) (2) ア・就職内定率95%以上の維持(H30:100%) イ・学校教育自己診断の「長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついた」の項目について、肯定的回答60%以上をめざす。(H30:56%) ウ・生徒対象・学校教育自己診断の「自主的にあいさつやお礼を言うようになった」の項目について、肯定的回答、80%以上をめざす。(H30:78%) (3) イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる行事を年1回以上企画する。 「エンパワメントスクールに来て良かった」(生徒用)項目について、肯定的回答66%以上をめざす。(H30:64%) (4) ア・中学校教員向け学校説明会と公開授業を組み合わせて実施する。(年間1回以上)	ア・入学前の3月に全ての中学校にヒアリングを実施するとともに、4月、5月に懇談期間を設けて懇談を実施(○) 生徒の肯定的回答は60%() ・保護者の肯定的回答は62%() 学年が上がるにしたがって肯定的回答が高く保護者の信頼が増している。 ウ・生徒の肯定的回答は68%() 生徒会を中心に体育祭や文化祭などで、生徒の意見を取り入れ、魅力ある行事づくりに工夫を重ねた結果、満足度アップにつながった。 ・年度末(2月末)の1年生の部活動加入率は49%() サッカー部には多くの新入生が加入 ア・学校斡旋就職希望者は全員就職が決定。100%() イ・肯定的回答は1%上昇し57%() 3年生は8%(50 58)上昇している。進路指導も含め、3年間の取組みが効果をあげた。 ウ・肯定的回答は1%上昇し79%() 1・2年生は80%を超えた。朝の校門での挨拶活動が少しずつ効果をあげている。今後も教職員からの声掛けを継続したい イ・授業を通じて外国にルーツを持つ生徒が自分の母国を紹介する機会を企画した。(○) 「多文化共生が進んでいる」の肯定的回答は71%、 「エンパワメントスクールに来て良かった」の肯定的回答は63%() 今後は「授業のわかりやすさ」、「考え・意見を伝える力」、「行事の満足度」、「指導の納得」の項目を工夫して学校満足度を向上させたい。 ア・11月に公開授業と学校説明会を組み合わせて実施した。(○) ・修学旅行の様子をHPでリアルタイム配信。今後、HPの更新の頻度を上げていく。()
3 ICTを活用した校務の効率化	(1)ICT等の活用により、教職員の事務作業時間の軽減 (2)ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成	(1)・校務処理システムやICT等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する。 (2)・ミドルリーダーの育成を図る。 ・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。	(1)・SSCの掲示板活用と職員室掲示を併用し教職員への日々の連絡体制を徹底する。 (2)・教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を2回以上実施する。	1・教育庁から提供される資料等はSSC掲示板に保存するとともに、職員会議で周知。職員室の掲示版も整理した。() 校務処理システムを活用して生徒情報は一元管理できている。() 2・首席を中心にベテラン教職員によるOJTを活用したミドルリーダー育成と校長等による経験年数の少ない教員研修を各学期に1回実施した()